

江府町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

江府町での農業生産は、水稻を第一に考え、主食用米を中心として野菜と畜産の複合経営が営まれており、白ねぎ・トマト等の生産が盛んである。また、道の駅「奥大山」を中心とした地域特産物直売所を活用し、作物の生産体制の強化や地産地消の促進を行っていくよう取組を行っている。

主食用米においては売れる米づくりを目指し、特別栽培米の取組が増加している。また、特別栽培米より品質の高いお米づくりを目指した『奥大山プレミアム特別栽培米』の取組が現在進行中である。この取組ではお米の美味しさを数値化した食味値・味度値といったような数値を一定の基準とし、良食味米の中でもさらに品質の高い食味値・味度値90以上のお米を生産していく。

非主食用米においては、引き続き多収品種による飼料用米を必要に応じ作付し、耕作放棄地の発生抑制を図る。

江府町の課題としては生産者の高齢化と後継者の農業離れ、兼業化が進み、土地利用型農業を中心に担い手不足が深刻化している。さらに、担い手不足による耕作放棄地の増加も懸念されている。

このような状況を打破するためにも、地域農業や農地について地域で話し合いを深め、人・農地プランの充実を図り、担い手の創出・育成や農地中間管理事業の活用を通して、地域農業の再生を図る。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

コシヒカリ・ひとめぼれ・きぬむすめを主力品種とし、特別栽培の水稻(コシヒカリ)を推し進めていく。また特別栽培米よりもさらに品質の高い『奥大山プレミアム特別栽培米』の取組が進行中であり、付加価値の高い米づくりに取り組んでいく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

水田を有効に活用するために必要に応じて多収品種の生産に取り組む。

イ 米粉用米

米粉麵用の需要に対応した生産に取り組む。

(3) 大豆・麦

大豆については加工業者のニーズが高いサチユタカの作付を推進し、麦については地元業者からパン用小麦の生産が求められているところである。

団地化・作業集積による作業の効率化、排水対策(額縁明渠等)の徹底による単収・品質の向上に取り組む。

(4) 飼料作物

町内の繁殖和牛農家の飼料を安定的に継続して供給し、また飼料代を低減するために、畜産農家、その周辺農家が協力し飼料作物の作付を行う。

(5) そば

収穫量の年次変動が大きいですが、比較的栽培が容易であるため、適正品種を選定し、団地化や共同作業化による適期刈取り等の徹底、さらに排水対策(額縁明渠等)の施用による単収・品質の向上に取り組む。また平成28年度に発足した奥大山蕎麦ブランド化推進協議会と連携しながら、生産面では不作付地への作付や二毛作の取組により作付面積の拡大を推進し、また販売面ではそば粉やそば粉使用加工品等の販売や地元飲食店による奥大山そば提供の推進を図ることで“奥大山そば”としての産地定着を目指す。

(6) 高収益作物(野菜等)

ア 地域基盤作物

江府町内で比較的、作付が多く、生産部会が設置されている等生産の盛んな7品目(白ねぎ・トマト・ピーマン・みょうが・キャベツ・すいか・こんにゃく)を地域基盤作物として支援し、生産量の維持、拡大を図るため、技術指導の徹底等による各品目の生産体制強化を図る。また平成27年度にオープンした道の駅「奥大山」等の地域特産物直売所への販売を通して、農業所得向上や地産地消の推進を図る。

イ 直売所人気作物

本町の「道の駅奥大山」や農産物直売所ふれあい村アスパル等の特産物直売所では、地産地消を進め、集荷量、品目数を充実が求められている。転作田を有効活用した特産物直売所の人気品目の生産を支援し、生産量の拡大や直売所等の品ぞろえの拡充を図り、農家所得向上と地域活性化を目指す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	293.9	293.4	300.0
飼料用米	0.7	0.0	0.5
米粉用米	0.0	0.1	0.5
麦	0.1	0.4	1.0
大豆	6.6	5.3	7.0
飼料作物	8.7	9.4	10.0
そば	13.1	14.7	20.0
その他地域振興作物	24.3	28.6	37.0
・白ネギ	3.8	3.0	4.0
・トマト	1.4	1.3	2.0
・ピーマン	0.4	0.5	1.0
・みょうが	1.2	0.9	1.5
・キャベツ	0.7	0.8	1.0
・すいか	0.3	0.2	0.5
・こんにゃく	0.6	0.4	1.0
・直売所人気作物	24.0	22.1	26.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	白ねぎ、トマト、 ピーマン、みょう が、キャベツ、す いか、こんにやく (基幹作)	地域基盤作物作付助成	作付面積	(29年度) 8.4ha	(32年度) 11.0ha
2	直売所人気作物作 付助成対象リスト 掲載作物(基幹作)	直売所人気作物作付助成	作付面積	(29年度) 0.0ha	(32年度) 5.0ha
3	麦、大豆、飼料作物、 そば(二毛作)	二毛作助成	取組面積	(29年度) 0.3ha	(32年度) 1.0ha
4	大豆、そば	大豆・そば排水対策助成	取組面積 (実施率)	(29年度) 6.8ha (34%)	(32年度) 13.5ha (50%)
5	整理番号1、2、4 の作物	集落内担い手育成助成	取組面積 (申請担い手数)	(29年度) 0.0ha (2件)	(32年度) 12.0ha (6件)
6	そば	そば共同作業取組助成	取組面積 (実施率)	(29年度) 0.0ha (0%)	(32年度) 10.0ha (65%)
7	そば	そば作付助成	取組面積	(29年度) 13.1ha	(32年度) 20.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり